

カローシュティー文字貨幣3種

中村雅之

ギリシア文字ギリシア語とカローシュティー文字ブラークリット語の2言語表記貨幣を3種紹介し、あわせてカローシュティー文字の書体について考えてみたい。今回扱うのは、インドグreek貨幣2種とインドスキタイ貨幣1種で、いずれも古代文字資料館の管理するものである。なお、銘文については前稿「インドグreek貨幣の銘文」(『KOTONOHA』21号、2004)もあわせて参照されたい。

1. エウクラティデスの銅貨



(表:ギリシア文字ギリシア語)



(裏:カローシュティー文字ブラークリット語)



裏面上段

sa ja ra ha ma



下段

sa ta ti kra vu e

インドグreek朝のエウクラティデス(前2世紀)の方形銅貨である。銘文の内容は、表を仮に左・上・下の順に読めばΒΑΣΙΛΕΩ[Σ] ΜΕΓΑΛΟΥ ΕΥΚΡΑΤΙΔΟΥ (basileōs megalou eukratidou/偉大なる王エウクラティデスの[貨幣])、裏が上・下の順に maharajasa evukratitasa (大王エウクラティデスの[貨幣])と読める(文字は右から左へ読み進む)。前稿で扱ったアポロトス銅貨のカローシュティー文字の部分は「maharajasa apaladatasa tradarasa」とあり、すべて(母音 a を内包する)基本字母で記され、母音記号は見られなかった。これに対して本貨幣では、王名「evukratitasa」の中に「e」「u」「i」の3種の母音記号が確認できる。すなわち、「ㄣ (a) ㄣ (e) ㄣ (va) ㄣ (vu) ㄣ (ta) ㄣ (ti)」となる。また、「ㄣ (ta)」は

フットマークの付いた「𐤆」で記されている(フットマークについては前稿を参照)。これはフットマークなしでは「𐤅 (ra)」と区別が付きにくいためであろう。「ra」は「𐤅」または「𐤆」の形で記されるが、「ta」および「va」と紛らわしい。

「ma」の字形は少し変わっている。「ma」は通常「𐤌」か、もしくはドット状のフットマークが付いた「𐤌」であるが、本貨幣ではそのドットの部分がやや長い線になっている。

2. メナンドロスの銅貨



(表: ギリシア文字ギリシア語)



(裏: カローシュティー文字プラークリット語)

裏面上段



sa ra ta tra

左側



sa dra naṃ me

インドギリク朝のメナンドロス(前2世紀)の方形銅貨である。銘文は摩滅が激しいが、表が左・上・右の順にΒΑΣΙΛΕΩΣ ΣΩΤΗΡΟΣ ΜΕΝΑΝΔΡΟΥ(basileōs sōtēros menandrou/救済者たる王メナンドロスの[貨幣])、裏が右・上・左の順に[maharaja]sa tratarasa menaṃdrasa(救済者たる大王メナンドロスの[貨幣])とある。右側はほとんど見えない。「menaṃdrasa」の最初の文字は下部が欠けているが、中央の母音記号「e」は確認できる。次の文字「naṃ」は基本字母「𐤎 (na)」の下に小さな「𐤌 (ma)」を付して「naṃ」を表わしたものであるが、基本字母にフットマークが付いたようにも見えるため、研究者によってはこの王名を「menadrassa」とすることもある。「𐤎 (dra)」は基本字母「𐤎 (da)」の下部を右に払って二重子音「𐤎 (dra)」とし、ドットのフットマークを付したものである。「tratarasa」の「𐤆 (tra)」も基本字母「𐤆 (ta)」の下部を右に払って「tra」としたものである。ドットのついた「𐤎」にも見えるが、はっきりしない。また、「ta」はここでもフットマークを付した字形「𐤆」で見えている(下部中央が少し欠けている)。

3. ヴォノネス&スハラガダマの銀貨



(表：ギリシア文字ギリシア語)

裏面 (10 時方向から反時計周り)



(裏：カローシュティー文字プラークリット語)

(5 時方向から時計回り)



sa a mi dhra sa tra pu ra ho la spa



sa ma da ga la spa

インドスキタイ朝のヴォノネス(前1世紀)の円形銀貨である。銘文は表と裏で内容が異なっている。表は、8時半方向から6時方向へと外向き時計回りに ΒΑΣΙΛΕΩΣ ΒΑΣΙΛΕΩΝ ΜΕΓΑΛΟΥ(basileōs basileōn megalou/偉大なる諸王の王の)、8時半方向から6時方向へと内向き反時計回りに onōnou(ヴォノネスの)とあり、全体で「偉大なる諸王の王、ヴォノネスの[貨幣]」と読める。裏は、4時半方向から10時方向へと外向き反時計回りに śpalahoraputrasa dhramiasa(スハラホラの子にして法を守りたる)、5時方向から9時方向へと内向き時計回りに śpalagadamasa(スハラガダマの)とあり、全体で「スハラホラの子にして法を守りたるスハラガダマの[貨幣]」と読める。

「dhramiasa」の語はサンスクリット語の「dhārmika-(正しき法の、法を守りたる) <dharma-(法)」に相当する語と考えられる。他の貨幣に、本貨幣と同じギリシア語銘文を記し、かつ裏面に「maharajabhrata dhramikasa śpalahorasa(大王の兄弟、法を守りたるスハラホラの)」と記されたものが知られているが、この中の「dhramikasa」も本貨幣に見える「dhramiasa」と同じ語であろう。

「𑀲(śpa)」は「𑀢(śa)」の下に「𑀧(pa)」をつなげたもの。「𑀱(dhra)」は基本字母「𑀲(dha)」の下部を右に払って「dhra」としたもの。「𑀭(trā)」にはドットが付されている。